

仏教学部 (3つのポリシー)

教育の理念

仏教学部は、建学の理念である「仏教の教義並びに曹洞宗立宗の精神」に則って教育を行う中心的学部であり、それらを体系的に多角的視野から学び、仏教による人間教育を行う。それらをその後の多様な人生の中に自ら活かし、広く社会に発信することができる人材を養成することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

仏教学部は、本学の教育の理念に基づいて定められた下記の 5 つの能力を身につけ、所定の期間在学し、学部が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができるとする駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

(DP2) 多様性理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な異言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と専門分野の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、状況に応じて ICT（情報通信技術）をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出すことができる。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

他分野にも共通する基本的な研究方法を学び、レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、それによって研究・考察した結果を、他者にわかりやすく発表できる。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

体系的に修得した仏教や禅の知識や実践を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、現代社会が抱える様々な問題の解決に寄与するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学修評価の観点												
			知識	理解	技能	思考力	判断力	表現力	関心	意欲	態度	主体性	多様性	協働性	
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を実践する力	◎	○	◎					◎	◎	◎	○		
	DP2	多様性理解と尊重	○	◎						○	○	○	○	◎	○
	DP3	情報分析力と問題解決力			○	◎	◎	○					○		
	DP4	コミュニケーション能力			○	○		◎					○	○	◎
	DP5	専門分野の知識・技能の活用力	◎	◎	◎	○	○	○					◎	○	○

※学習評価の観点は「学力の三要素」と「学習指導要領」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

積尊に始まり、広くアジアの広域に展開した仏教の各領域の体系的知識や研究方法を身につけながら、次第に具体的な問題意識や課題をもって、主体的な学習・研究活動を継続して行えるよう教育課程を編成する。仏教・禅の教義や実践的意義、教団の歴史的展開および社会・文化に与えた影響などを多角的視野から学び、広汎な視点に立脚し、様々な仏教の思想や文化を修得し、それぞれが興味を持った分野について、より深く研究していくとともに、その学びの中で得た仏教の考え方や生き方を拠り所としながら、その後の豊かな人生を実現することが出来るよう教育する。また、教育課程においては、自らの身心をかえりみ、誤った思い込みなどに気づくように努めるとともに、決まり切った常識を疑い、自ら探求して物事の本質を明らかにする姿勢を育ててゆく。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。また、「坐禅」で、自ら坐禅を実習することによって、その意義と実践方法を身につける。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。
- 3) 実用スキル教育として1年次に「仏教学セミナー」を、2年次に「基礎演習」を開講し、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけると共に、仏教や禅を研究し実践するための基礎的な教育を行う。
- 4) 人文、社会、自然、ライフデザイン、外国語、健康・スポーツの分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。
- 5) 専門教育科目では、仏教や禅を学ぶ上での基礎・基本となる導入教育科目を初年次に配置し、そこから専門分野の知識を体系的に理解する講義科目、自らの知的好奇心を追求し、これまでに修得した知識を実践する演習科目、修得した知識を実践する実習科目を配置し、卒業年次に学びの集大成として卒業論文を作成する。
- 6) 曹洞宗の僧籍を有する学生は、僧侶として修めるべき基礎教育科目を履修することができる。

2. 教育方法

- 1) 1、2年次は、禅学科・仏教学科の区別はない。専門研究への導入として、仏教や禅の基礎知識を修得する宗教教育科目と、未知の領域・環境への対応やコミュニケーションを円滑にするための教養教育科目・外国語科目を履修することで、建学の理念を理解し、幅広く豊かな教養を身につける。また、仏教の各領域の体系的知識を修得しながら、その後の研究の基礎となる語学や、仏教および禅の研究方法を修得する。2年次には、曹洞宗の宗旨の根幹に位置づけられる坐禅を必修科目として実習する。
- 2) 演習・実習科目、及び新入生セミナー、仏教学セミナーにおいては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。
- 3) 3年次に、禅学科と仏教学科の学科分けが行われる。それぞれの学科において、さらに専門的な自らの研究課題を持ち、必修科目である演習Ⅰを中心に、より専門的・主体的な研究を行う。4年次には、演習Ⅰを継続してより深める演習Ⅱと、卒業論文を必修とする。演習科目（ゼミ）では、事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) eラーニングシステム等のWebシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。
- 5) 基礎的な必修科目や複数開講されている同一名称の科目（演習を除く）では、ルーブリックを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にし、教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。
- 6) 学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 評価

- 1) 入学生に対しては、入学前教育（対象者のみ）として、基礎教養を身につけてもらうために、通信教育教材を課題に課し、結果を分析するとともにアセスメントテスト・英語能力テストによって評価している。
- 2) 在学生に対しては、各履修科目の各種試験による評価（GPA 評価等）により学修成果の評価・測定を行い、取得単位数によって進級制限を設け、学生への反省と奮起を促している。
- 3) 卒業生に対しては、学びの集大成として卒業論文の作成を課し、学修成果の評価・測定を行っている。

	入学生	在学生	卒業生
教育課程レベル（学部・学科）	<ul style="list-style-type: none"> ・入試結果 ・アセスメント・テスト ・英語能力テスト ・入学前教育取組状況（対象者のみ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・GPA・成績分布状況 ・修得単位数 ・学生による授業アンケート ・学修行動調査（学修時間等） ・アセスメント・テスト ・英語能力テスト ・進級率（年次） 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時調査アンケート ・卒業生アンケート調査 ・資格試験合格率 ・卒業論文提出率
科目レベル（個々の科目）		<ul style="list-style-type: none"> ・GPA・成績分布状況 ・学修ポートフォリオ ・学生による授業アンケート ・eラーニング利用状況 ・アクティブ・ラーニング実施状況 ・休講率・補講率 	

4. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	履修 単位	配当 学年	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	各科目群のねらい
駒澤 人 育 成 基 礎 プ ロ グ ラ ム 全 学 共 通 科 目	仏教と人間	4	1	◎					仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	新入生セミナー	2	1	○	○		◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育	2	2			◎			社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につける。
	実用英語教育	1	1・2				◎		課題がある「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。
	日本語リテラシー教育	2	1				◎		日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的なレベルを身につける。
	ICT教育	2	1			◎			ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける。
	人文・社会・自然・ライフデザイン分野	2～4	1～4		◎		○		多角的な知識と深い教養を体系的に身につける。
	外国語科目	1・2	1・2		◎		○		外国語について社会人に求められる十分なレベルを身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める。
	健康・スポーツ分野	1・2	1～4		◎		○		スポーツの実技能力や健康に関する理論を身につける。
専 門 教 育 科 目	導入教育科目	2～4	1					◎	専門分野で4年間学ぶために必要な基礎的な方法を身につける。
	講義科目	2～4	1～4					◎	専門分野の知識を体系的に身につける。
	実習科目	1～4	1～4			○	○	◎	坐禅を実習し、その意義を学び、実践方法を身につける。
	演習科目	2～4	1～4	○		○	○	◎	少人数クラスで指導教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。
	卒業論文・卒業研究	4～8	4	○		○	○	◎	4年間の学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文を作成する。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

仏教学部では、専門分野の体系的な知識、それらに応用する技能、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力と問題解決力を身につけた上で、より専門的にその分野の知識・能力を深めるため、禅学科・仏教学科に学科分けせず入学者選抜を行い、3年次進級時において、学科を選択する方式をとっている。

仏教学部では、この前提において、受験生を適正かつ公正に選抜するために、多面的・総合的な視点による多様な入学者選抜を行う。

1. 仏教学部の求める学生像

- (AP1) 仏教学部では、広い視野に立ちながら多くの関係文献を丹念に読解していく学習態度と知識と読解力が求められる。そのため、高校でのすべての科目を十分習得し、日常的な学習の習慣が身につけている学生を求めている。一般においては、教科試験によって評価し、自己推薦・特別選抜においては、調査書・書類審査・筆記試験等によって評価する。〔知識、理解、技能〕
- (AP2) 仏教や禅を学ぶ強い意欲を持っていることを基準として各種の自己推薦・特別選抜を実施する。特に、仏教や禅を学ぶ上で有効な能力に関わる各種検定の資格取得者、および曹洞宗の僧籍を有する人を対象に「特性評価型」の自己推薦選抜を実施する。高校時代に得た各種資格における能力を積極的に活かし、また曹洞宗僧侶として生涯にわたって禅および仏教の修学をつづける意欲ある学生を求めている。小論文・面接等によって学習意欲と学習能力を確認し評価する。〔意欲、関心、態度〕
- (AP3) 仏教学部のカリキュラムを修得する上で必要な国語・外国語・歴史において、十分な基礎能力を有し、また、与えられた課題に対し、自分の視点や意見を論理的に表現できる思考力と文章力、大学生活に適応できるコミュニケーション能力を有し、周囲の人々と豊かな人間関係を構築できる学生を求めている。面接、および小論文等によって評価する。〔思考力、判断力、表現力〕
- (AP4) 仏教学部では、世界的に関心を持たれている仏教や禅の歴史や思想を体系的に学習・研究することによって、国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲を持つ学生を求めている。面接、および小論文等によって評価する。〔主体性、多様性、協働性〕

2. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

入学制度		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学制度のねらい
一般選抜	全学部統一日程	教科	◎		○		高等学校で修得した教科の理解度を重視した選抜を行う。全学部統一日程は、全問マークセンス方式で行う。T方式とS方式は、マークセンス方式と記述式を併用して行う。試験は3教科で行う。
	T方式	教科	◎		○		
	S方式	教科	◎		○		
大学入学共通テスト利用選抜	前期	教科	◎		○		高等学校で修得した教科の理解度を重視した選抜を行う。大学入学共通テストを受験し、学部が指定する科目の得点で選抜する。前期・中期に出願する機会がある。
	中期	教科	◎		○		
自己推薦選抜	総合評価型	出願書類	○	○			高校でのすべての科目を十分習得し、日常的な学習の習慣が身についている受験生を選抜する。出願資格を満たした受験生には、出願書類(書類審査)、小論文による試験および面接・口頭試問を行う。
		小論文	◎	○	◎	◎	
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	特性評価型	書類審査	◎	○			
面接・口頭試問		○	◎	◎	◎		
特別選抜	スポーツ推薦選抜	出願書類	○	○			本学の教育の理念を理解し、本学部で学ぶ意欲が高く、学部の求める学生像との適合性を重視して受験生を選抜する。指定されたスポーツ競技で高い能力を持ち、かつ、競技部の部長の推薦を得られた者を対象に、出願書類(書類審査)、小論文による試験および面接・口頭試問を行う。
		小論文	◎	○	◎	◎	
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	指定校推薦選抜	出願書類	○	○			本学が定める出願資格を満たし、高等学校長が推薦する者で、本学の教育の理念を理解し、本学部で学ぶ意欲が高い受験生を対象に、出願書類(書類審査)、小論文による試験および面接・口頭試問を行う。
		小論文	◎	○	◎	◎	
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	附属高等学校等推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学が定める出願資格を満たし、高等学校長が推薦する者で、本学の教育の理念を理解し、本学部で学ぶ意欲が高い受験生を対象に、出願書類(書類審査)、事前課題による試験を行う。
		事前課題	◎		○		
	社会人特別選抜	出願書類	○	○			生涯学習の一環として、社会人に大学の門戸を開き、学内の活性化を図る。出願書類(書類審査)、小論文による試験、英語、面接・口頭試問を行う。
		小論文	◎	○	◎	◎	
		教科	○				
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	帰国生特別選抜	出願書類	○	○			国際的感覚を身につけた個性ある勉学意欲旺盛な学生を受け入れる。外国の高等学校に2年以上在学した受験生を対象とする。出願書類(書類審査)、日本語(国語)の試験、外国語、面接・口頭試問を行う。
		筆記	○				
		教科	○				
面接・口頭試問		○	◎	◎	◎		
外国人留学生選抜	出願書類	○	○			外国籍を有する者で、大学教育を受けることを目的とした受験生を対象とする。日本学生支援機構が行う「日本留学試験」の受験を出願条件とする。出願書類(書類審査)、小論文による試験および面接・	
	日本留学試験(成績)	◎					

		筆記	◎				口頭試問を行う。
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	編入学者選抜	出願書類	○	○			大学・短期大学・高等専門学校を卒業した者や他大学在学中の者等を対象とする。出願書類(書類審査)、仏教学(筆記)、英語の筆記試験、および面接・口頭試問を行う。
		筆記	◎				
		教科	◎				
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	社会人編入学者選抜	出願書類	○	○			入学年時点で満26歳以上であり、大学・短期大学・高等専門学校等を卒業した者を対象とする。出願書類(書類審査)、小論文による試験および面接・口頭試問を行う。
		小論文	◎	○	◎	◎	
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	

教育の理念

禅学科の研究と教育の目的は、建学の理念の「曹洞宗立宗の精神」を中心に、禅の思想と実践を専門的に学ぶことにある。そのために、インドに始まり中国・日本へと伝承された禅の思想と実践について、禅宗の史書や語録などの禅籍を読みといて幅広く学び、また道元禅師・瑩山禅師が示された正伝の仏法を追究し、それらを自らの人生と現代社会に生かしていくことを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

禅学科は、本学の教育の理念に基づいて定められた下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、学部が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができるとする駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

(DP2) 多様性理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な異言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と専門分野の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、状況に応じて ICT（情報通信技術）をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出すことができる。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

他分野にも共通する基本的な研究方法を学び、レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、それによって研究・考察した結果を、他者にわかりやすく発表できる。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

体系的に修得した仏教や禅の知識や実践を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、現代社会が抱える様々な問題の解決に寄与するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学修評価の観点												
			知識	理解	技能	思考力	判断力	表現力	関心	意欲	態度	主体性	多様性	協働性	
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を実践する力	◎	○	◎					◎	◎	◎	○	○	
	DP2	多様性理解と尊重	○	◎						○	○	○	○	◎	○
	DP3	情報分析力と問題解決力			○	◎	◎	○					○		
	DP4	コミュニケーション能力			○	○		◎					○	○	◎
	DP5	専門分野の知識・技能の活用力	◎	◎	◎	○	○	○					◎	○	○

※学習評価の観点は「学力の三要素」と「学習指導要領」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

積尊に始まり、広くアジアの広域に展開した仏教の各領域の体系的知識や研究方法を身につけながら、次第に具体的な問題意識や課題をもって、主体的な学習・研究活動を継続して行えるよう教育課程を編成する。仏教・禅の教義や実践的意義、教団の歴史的展開および社会・文化に与えた影響などを多角的視野から学び、広汎な視点に立脚し、様々な仏教の思想や文化を修得し、それぞれが興味を持った分野について、より深く研究していくとともに、その学びの中で得た仏教の考え方や生き方を拠り所としながら、その後の豊かな人生を実現することが出来るよう教育する。また、教育課程においては、自らの身心をかえりみ、誤った思い込みなどに気づくように努めるとともに、決まり切った常識を疑い、自ら探求して物事の本質を明らかにする姿勢を育ててゆく。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。また、「坐禅」で、自ら坐禅を実習することによって、その意義と実践方法を身につける。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。
- 3) 実用スキル教育として1年次に「仏教学セミナー」を、2年次に「基礎演習」を開講し、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけると共に、仏教や禅を研究し実践するための基礎的な教育を行う。
- 4) 人文、社会、自然、ライフデザイン、外国語、健康・スポーツの分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。
- 5) 専門教育科目では、仏教や禅を学ぶ上での基礎・基本となる導入教育科目を初年次に配置し、そこから専門分野の知識を体系的に理解する講義科目、自らの知的好奇心を追求し、これまでに修得した知識を実践する演習科目、修得した知識を実践する実習科目を配置し、卒業年次に学びの集大成として卒業論文を作成する。
- 6) 曹洞宗の僧籍を有する学生は、僧侶として修めるべき基礎教育科目を履修することができる。

2. 教育方法

- 1) 1、2年次は、禅学科・仏教学科の区別はない。専門研究への導入として、仏教や禅の基礎知識を修得する宗教教育科目と、未知の領域・環境への対応やコミュニケーションを円滑にするための教養教育科目・外国語科目を履修することで、建学の理念を理解し、幅広く豊かな教養を身につける。また、仏教の各領域の体系的知識を修得しながら、その後の研究の基礎となる語学や、仏教および禅の研究方法を修得する。2年次には、曹洞宗の宗旨の根幹に位置づけられる坐禅を必修科目として実習する。
- 2) 演習・実習科目、及び新入生セミナー、仏教学セミナーにおいては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。
- 3) 3年次に、禅学科と仏教学科の学科分けが行われる。禅学科に進んだ者は、禅に関する自らの研究課題を持ち、必修科目である演習Ⅰを中心に、より専門的・主体的な研究を行う。4年次には、演習Ⅰを継続してより深める演習Ⅱと、卒業論文を必修とする。演習科目（ゼミ）では、事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) eラーニングシステム等のWebシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。
- 5) 基礎的な必修科目や複数開講されている同一名称の科目（演習を除く）では、ループリックを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にし、教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。
- 6) 学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 評価

- 1) 入学生に対しては、入学前教育（対象者のみ）として、基礎教養を身につけてもらうために、通信教育教材を課題に課し、結果を分析するとともに、アセスメントテスト・英語能力テストによって評価している。
- 2) 在学生に対しては、各履修科目の各種試験による評価（GPA 評価等）により学修成果の評価・測定を行い、取得単位数によって進級制限を設け、学生への反省と奮起を促している。
- 3) 卒業生に対しては、学びの集大成として卒業論文の作成を課し、学修成果の評価・測定を行っている。

	入学生	在学生	卒業生
教育課程レベル(学部・学科)	<ul style="list-style-type: none"> ・入試結果 ・アセスメント・テスト ・英語能力テスト ・入学前教育取組状況(対象者のみ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・GPA・成績分布状況 ・修得単位数 ・学生による授業アンケート ・学修行動調査(学修時間等) ・アセスメント・テスト ・英語能力テスト・進級率(年次) 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時調査アンケート ・卒業生アンケート調査 ・資格試験合格率 ・卒業論文提出率
科目レベル(個々の科目)		<ul style="list-style-type: none"> ・GPA・成績分布状況 ・学修ポートフォリオ ・学生による授業アンケート ・eラーニング利用状況 ・アクティブ・ラーニング実施状況 ・休講率・補講率 	

4. 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	履修単位	配当学年	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	各科目群のねらい
駒澤 人 育 成 基 礎 プ ロ グ ラ ム 全 学 共 通 科 目	仏教と人間	4	1	◎					仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	新入生セミナー	2	1	○	○		◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育	2	2			◎			社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につける。
	実用英語教育	1	1・2				◎		課題がある「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。
	日本語リテラシー教育	2	1				◎		日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的なレベルを身につける。
	ICT教育	2	1			◎			ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける。
	人文・社会・自然・ライフデザイン分野	2~4	1~4		◎		○		多角的な知識と深い教養を体系的に身につける。
	外国語科目	1・2	1・2		◎		○		外国語について社会人に求められる十分なレベルを身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める。
	健康・スポーツ分野	1・2	1~4		◎		○		スポーツの実技能力や健康に関する理論を身につける。
専 門 教 育 科 目	導入教育科目	2~4	1					◎	専門分野で4年間学ぶために必要な基礎的な方法を身につける。
	講義科目	2~4	1~4					◎	専門分野の知識を体系的に身につける。
	実習科目	1~4	1~4			○	○	◎	坐禅を実習し、その意義を学び、実践方法を身につける。
	演習科目	2~4	1~4	○		○	○	◎	少人数クラスで指導教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。
	卒業論文・卒業研究	4~8	4	○		○	○	◎	4年間の学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文を作成する。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

禅学科では、専門分野の体系的な知識、それらを応用する技能、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力と問題解決力を身につけた上で、より専門的にその分野の知識・能力を深めるため、禅学科・仏教学科に学科分けせず入学者選抜を行い、3年次進級時において、学科を選択する方式をとっている。

禅学科では、この前提において、受験生を適正かつ公正に選抜するために、多面的・総合的な視点による多様な入学者選抜を行う。

1. 禅学科の求める学生像

- (AP1) 禅学科では、広い視野に立ちながら禅に関する多くの関係文献を丹念に読解していく学習態度と知識と読解力が求められる。そのため、高校でのすべての科目を十分習得し、日常的な学習の習慣が身につけている学生を求めている。一般選抜においては、教科試験によって評価し、自己推薦・特別選抜においては、調査書・書類審査・筆記試験等によって評価する。〔知識、理解、技能〕
- (AP2) 禅を学ぶ強い意欲を持っていることを基準に各種の自己推薦・特別選抜を実施する。特に、禅を学ぶ上で有効な能力に関わる各種検定の資格取得者、および曹洞宗の僧籍を有する人を対象に「特性評価型」の自己推薦選抜を実施する。高校時代に得た各種資格における能力を積極的に活かし、また曹洞宗僧侶として生涯にわたって禅および仏教の修学をつづける意欲ある学生を求めている。小論文・面接等によって学習意欲と学習能力を確認し評価する。〔意欲、関心、態度〕
- (AP3) 禅学科のカリキュラムを修得する上で必要な国語・外国語・歴史において、十分な基礎能力を有し、また、与えられた課題に対し、自分の視点や意見を論理的に表現できる文章力、大学生活に適應できる思考力、コミュニケーション能力を有して、周囲の人々と豊かな人間関係を構築できる学生を求めている。面接、および小論文等によって評価する。〔思考力、判断力、表現力〕
- (AP4) 禅学科では、世界的に関心を持たれている禅や仏教の歴史や思想を体系的に学習・研究することによって、国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲を持つ学生を求めている。面接、および小論文等によって評価する。〔主体性、多様性、協働性〕

2. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

入学制度		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学制度のねらい
一般選抜	全学部統一日程	教科	◎		○		高等学校で修得した教科の理解度を重視した選抜を行う。全学部統一日程は、全問マークセンス方式で行う。T方式とS方式は、マークセンス方式と記述式を併用して行う。試験は3教科で行う。
	T方式	教科	◎		○		
	S方式	教科	◎		○		
大学入学共通テスト利用選抜	前期	教科	◎		○		高等学校で修得した教科の理解度を重視した選抜を行う。大学入学共通テストを受験し、学部が指定する科目の得点で選抜する。前期・中期の期間に出願する機会がある。
	中期	教科	◎		○		
自己推薦選抜	総合評価型	出願書類	○	○			高校でのすべての科目を十分習得し、日常的な学習の習慣が身につけている受験生を選抜する。出願資格を満たした受験生には、出願書類（書類審査）、小論文による試験および面接・口頭試問を行う。
		小論文	◎	○	◎	◎	
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	特性評価型	書類審査	◎	○			仏教や禅を学ぶ上で有効な能力に関わる各種検定の資格取得者、および曹洞宗の僧籍を有する者を対象に行う。出願資格を満たし、書類審査を通過した受験生には、面接・口頭試問を行う。
面接・口頭試問		○	◎	◎	◎		
特別選抜	スポーツ推薦選抜	出願書類	○	○			本学の教育の理念を理解し、本学部で学ぶ意欲が高く、学科の求める学生像との適合性を重視して受験生を選抜する。指定されたスポーツ競技で高い能力を持ち、かつ、競技部の部長の推薦を得られた者を対象に、出願書類（書類審査）、小論文による試験および面接・口頭試問を行う。
		小論文	◎	○	◎	◎	
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	指定校推薦選抜	出願書類	○	○			本学が定める出願資格を満たし、高等学校長が推薦する者で、本学の教育の理念を理解し、本学部で学ぶ意欲が高い受験生を対象に、出願書類（書類審査）、小論文による試験および面接・口頭試問を行う。
		小論文	◎	○	◎	◎	
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	附属高等学校等推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学が定める出願資格を満たし、高等学校長が推薦する者で、本学の教育の理念を理解し、本学部で学ぶ意欲が高い受験生を対象に、出願書類（書類審査）、事前課題による試験を行う。
		事前課題	◎		○		
	社会人特別選抜	出願書類	○	○			生涯学習の一環として、一般の社会人に大学の門戸を開き、学内の活性化を図る。出願書類（書類審査）、小論文による試験、英語、面接・口頭試問を行う。
		小論文	◎	○	◎	◎	
		教科	○				
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	帰国生特別選抜	出願書類	○	○			国際的感覚を身につけた個性ある勉学意欲旺盛な学生を受け入れる。外国の高等学校に2年以上在学した受験生を対象とする。出願書類（書類審査）、日本語（国語）の試験、外国語、面接・口頭試問を行う。
		筆記	○				
		教科	○				
面接・口頭試問		○	◎	◎	◎		
外国人留学生選抜	出願書類	○	○			外国籍を有する者で、大学教育を受けることを目的とした受験生を対象とする。日本学生支援機構が行う「日本留学試験」の受験を出願条件とする。出願書類（書類審査）、小論文による試験および面接・口頭試問を行う。	
	日本留学試験（成績）	◎					
	筆記	◎					

		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
編入学者選抜	出願書類		○	○			大学・短期大学・高等専門学校を卒業した者や他の大学から本学に年次の途中から入学し直す受験生等を対象とする。出願書類（書類審査）、仏教学（筆記）、英語の筆記試験および面接・口頭試問を行う。
	筆記		◎				
	教科		◎				
	面接・口頭試問		○	◎	◎	◎	
社会人編入学者選抜	出願書類		○	○			入学年時点で満26歳以上であり、大学・短期大学・高等専門学校等を卒業した者を対象とする。出願書類（書類審査）、小論文による試験および面接・口頭試問を行う。
	小論文		◎	○	◎	◎	
	面接・口頭試問		○	◎	◎	◎	

教育の理念

仏教学科の研究と教育の目的は、建学の理念の「仏教の教義」を中心に、広い立場から専門的に学ぶことにある。そのために、東アジアの広範な地域に広まった仏教の歴史と多様な文化を理解し、様々な言葉で書かれた仏典を読みといて、仏教の普遍的な真理を追究し、それらを自らの人生と現代社会に生かしていくことを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

仏教学科は、本学の教育の理念に基づいて定められた下記の 5 つの能力を身につけ、所定の期間在学し、学部が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができるとする駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

(DP2) 多様性理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な異言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と専門分野の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけ、状況に応じて ICT（情報通信技術）をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出すことができる。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

他分野にも共通する基本的な研究方法を学び、レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、それによって研究・考察した結果を、他者にわかりやすく発表できる。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

体系的に修得した仏教や禅の知識や実践を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、現代社会が抱える様々な問題の解決に寄与するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学修評価の観点												
			知識	理解	技能	思考力	判断力	表現力	関心	意欲	態度	主体性	多様性	協働性	
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を実践する力	◎	○	◎					◎	◎	◎	○	○	
	DP2	多様性理解と尊重	○	◎						○	○	○	○	◎	○
	DP3	情報分析力と問題解決力			○	◎	◎	○					○		
	DP4	コミュニケーション能力			○	○		◎					○	○	◎
	DP5	専門分野の知識・技能の活用力	◎	◎	◎	○	○	○					◎	○	○

※学習評価の観点は「学力の三要素」と「学習指導要領」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

積尊に始まり、広くアジアの広域に展開した仏教の各領域の体系的知識や研究方法を身につけながら、次第に具体的な問題意識や課題をもって、主体的な学習・研究活動を継続して行えるよう教育課程を編成する。仏教・禅の教義や実践的意義、教団の歴史的展開および社会・文化に与えた影響などを多角的視野から学び、広汎な視点に立脚し、様々な仏教の思想や文化を修得し、それぞれが興味を持った分野について、より深く研究していくとともに、その学びの中で得た仏教の考え方や生き方を拠り所としながら、その後の豊かな人生を実現することが出来るよう教育する。また、教育課程においては、自らの身心をかえりみ、誤った思い込みなどに気づくように努めるとともに、決まり切った常識を疑い、自ら探求して物事の本質を明らかにする姿勢を育ててゆく。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。また、「坐禅」で、自ら坐禅を実習することによって、その意義と実践方法を身につける。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新生セミナー」を初年次に開講する。
- 3) 実用スキル教育として1年次に「仏教学セミナー」を、2年次に「基礎演習」を開講し、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけると共に、仏教や禅を研究し実践するための基礎的な教育を行う。
- 4) 人文、社会、自然、ライフデザイン、外国語、健康・スポーツの分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。
- 5) 専門教育科目では、仏教や禅を学ぶ上での基礎・基本となる導入教育科目を初年次に配置し、そこから専門分野の知識を体系的に理解する講義科目、自らの知的好奇心を追求し、これまでに修得した知識を実践する演習科目、修得した知識を実践する実習科目を配置し、卒業年次に学びの集大成として卒業論文を作成する。
- 6) 曹洞宗の僧籍を有する学生は、僧侶として修めるべき基礎教育科目を履修することができる。

2. 教育方法

- 1) 1、2年次は、禅学科・仏教学科の区別はない。専門研究への導入として、仏教や禅の基礎知識を修得する宗教教育科目と、未知の領域・環境への対応やコミュニケーションを円滑にするための教養教育科目・外国語科目を履修することで、建学の理念を理解し、幅広く豊かな教養を身につける。また、仏教の各領域の体系的知識を修得しながら、その後の研究の基礎となる語学や、仏教および禅の研究方法を修得する。2年次には、曹洞宗の宗旨の根幹に位置づけられる坐禅を必修科目として実習する。
- 2) 演習・実習科目、及び新入生セミナー、仏教学セミナーにおいては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。
- 3) 3年次に、禅学科と仏教学科の学科分けが行われる。禅学科に進んだ者は、禅に関する自らの研究課題を持ち、必修科目である演習Ⅰを中心に、より専門的・主体的な研究を行う。4年次には、演習Ⅰを継続してより深める演習Ⅱと、卒業論文を必修とする。演習科目（ゼミ）では、事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) eラーニングシステム等のWebシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。
- 5) 基礎的な必修科目や複数開講されている同一名称の科目（演習を除く）では、ルーブリックを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にし、教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。
- 6) 学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 評価

- 1) 入学生に対しては、入学前教育（対象者のみ）として、基礎教養を身につけてもらうために、通信教育教材を課題に課し、結果を分析するとともに、アセスメントテスト・英語能力テストによって評価している。
- 2) 在学生に対しては、各履修科目の各種試験による評価（GPA 評価等）により学修成果の評価・測定を行い、取得単位数によって進級制限を設け、学生への反省と奮起を促している。
- 3) 卒業生に対しては、学びの集大成として卒業論文の作成を課し、学修成果の評価・測定を行っている。

	入学生	在學生	卒業生
教育課程レベル(学部・学科)	<ul style="list-style-type: none"> ・入試結果 ・アセスメント・テスト ・英語能力テスト ・入学前教育取組状況(対象者のみ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・GPA・成績分布状況 ・修得単位数 ・学生による授業アンケート ・学修行動調査(学修時間等) ・アセスメント・テスト ・英語能力テスト ・進級率(年次) 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時調査アンケート ・卒業生アンケート調査 ・資格試験合格率 ・卒業論文提出率
科目レベル(個々の科目)		<ul style="list-style-type: none"> ・GPA・成績分布状況 ・学修ポートフォリオ ・学生による授業アンケート ・eラーニング利用状況 ・アクティブ・ラーニング実施状況 ・休講率・補講率 	

4. 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎:特に重点を置いている。○:重点を置いている。

	科目群等	履修単位	配当学年	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	各科目群のねらい
駒澤 人 育 成 基 礎 プ ロ グ ラ ム 全 学 共 通 科 目	仏教と人間	4	1	◎					仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	新入生セミナー	2	1	○	○		◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育	2	2			◎			社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につける。
	実用英語教育	1	1・2				◎		課題がある「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。
	日本語リテラシー教育	2	1				◎		日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的なレベルを身につける。
	ICT教育	2	1			◎			ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける。
	人文・社会・自然・ライフデザイン分野	2~4	1~4		◎		○		多角的な知識と深い教養を体系的に身につける。
	外国語科目	1・2	1・2		◎		○		外国語について社会人に求められる十分なレベルを身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める。
	健康・スポーツ分野	1・2	1~4		◎		○		スポーツの実践能力や健康に関する理論を身につける。
専 門 教 育 科 目	導入教育科目	2~4	1					◎	専門分野で4年間学ぶために必要な基礎的な方法を身につける。
	講義科目	2~4	1~4					◎	専門分野の知識を体系的に身につける。
	実習科目	1~4	1~4			○	○	◎	坐禅を実習し、その意義を学び、実践方法を身につける。
	演習科目	2~4	1~4	○		○	○	◎	少人数クラスで指導教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。
	卒業論文・卒業研究	4~8	4	○		○	○	◎	4年間の学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文を作成する。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

仏教学科では、専門分野の体系的な知識、それらを応用する技能、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力と問題解決力を身につけた上で、より専門的にその分野の知識・能力を深めるため、禅学科・仏教学科に学科分けせず入学者選抜を行い、3年次進級時において、学科を選択する方式をとっている。

仏教学科では、この前提において、受験生を適正かつ公正に選抜するために、多面的・総合的な視点による多様な入学者選抜を行う。

1. 仏教学科の求める学生像

- (AP1) 仏教学科では、広い視野に立ちながら多くの関係文献を丹念に読解していく学習態度と知識と読解力が求められる。そのため、校でのすべての科目を十分習得し、日常的な学習の習慣が身につけている学生を求めている。一般選抜においては、教科試験によって評価し、自己推薦・特別選抜においては、調査書・書類審査・筆記試験等によって評価する。〔知識、理解、技能〕
- (AP2) 仏教を学ぶ強い意欲を持っていることを基準に各種の自己推薦・特別選抜を実施する。特に、仏教を学ぶ上で有効な能力に関わる各種検定の資格取得者、および曹洞宗の僧籍を有する人を対象に「特性評価型」の自己推薦選抜を実施する。高校時代に得た各種資格における能力を積極的に活かし、また曹洞宗僧侶として生涯にわたって禅および仏教の修学をつづける意欲ある学生を求めている。小論文・面接等によって学習意欲と学習能力を確認し評価する。〔意欲、関心、態度〕
- (AP3) 仏教学科のカリキュラムを修得する上で必要な国語・外国語・歴史において、十分な基礎能力を有し、また、与えられた課題に対し、自分の視点や意見を論理的に表現できる文章力、大学生活に適応できる思考力、コミュニケーション能力を有して、周囲の人々と豊かな人間関係を構築できる学生を求めている。面接、および小論文等によって評価する。〔思考力、判断力、表現力〕
- (AP4) 仏教学科では、世界的に関心を持たれている仏教や禅の歴史や思想を体系的に学習・研究することによって、国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲を持つ学生を求めている。面接、および小論文等によって評価する。〔主体性、多様性、協働性〕

2. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

入学制度		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学制度のねらい
一般選抜	全学部統一日程	教科	◎		○		高等学校で修得した教科の理解度を重視した選抜を行う。全学部統一日程は、全問マークセンス方式で行う。T方式とS方式は、マークセンス方式と記述式を併用して行う。試験は3教科で行う。
	T方式	教科	◎		○		
	S方式	教科	◎		○		
大学入学共通テスト利用選抜	前期	教科	◎		○		高等学校で修得した教科の理解度を重視した選抜を行う。大学入学共通テストを受験し、学部が指定する科目の得点で選抜する。前期・中期の期間に出願する機会がある。
	中期	教科	◎		○		
自己推薦選抜	総合評価型	出願書類	○	○			高校でのすべての科目を十分習得し、日常的な学習の習慣が身についている受験生を選抜する。出願資格を満たした受験生には、出願書類（書類審査）、小論文による試験および面接・口頭試問を行う。
		小論文	◎	○	◎	◎	
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	特性評価型	書類審査	◎	○			
面接・口頭試問		○	◎	◎	◎		
特別選抜	スポーツ推薦選抜	出願書類	○	○			本学の教育の理念を理解し、本学部で学ぶ意欲が高く、学科の求める学生像との適合性を重視して受験生を選抜する。指定されたスポーツ競技で高い能力を持ち、かつ、競技部の部長の推薦を得られた者を対象に、出願書類（書類審査）、小論文による試験および面接・口頭試問を行う。
		小論文	◎	○	◎	◎	
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	指定校推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学が定める出願資格を満たし、高等学校長が推薦する者で、本学の教育の理念を理解し、本学部で学ぶ意欲が高い受験生を対象に、出願書類（書類審査）、小論文による試験および面接・口頭試問を行う。
		小論文	◎	○	◎	◎	
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	附属高等学校等推薦選抜	出願書類	○	○			本学が定める出願資格を満たし、高等学校長が推薦する者で、本学の教育の理念を理解し、本学部で学ぶ意欲が高い受験生を対象に、出願書類（書類審査）、事前課題による試験を行う。
		事前課題	◎		○		
	社会人特別選抜	出願書類	○	○			生涯学習の一環として、社会人に大学の門戸を開き、学内の活性化を図る。出願書類（書類審査）、小論文による試験、英語、面接・口頭試問を行う。
		小論文	◎	○	◎	◎	
		教科	○				
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	帰国生特別選抜	出願書類	○	○			国際的感覚を身につけた個性ある勉強意欲旺盛な学生を受け入れる。外国の高等学校に2年以上在学した受験生を対象とする。出願書類（書類審査）、日本語（国語）の試験、外国語、面接・口頭試問を行う。
		筆記	○				
		教科	○				
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	外国人留学生選抜	出願書類	○	○			外国籍を有する者で、大学教育を受けることを目的とした受験生を対象とする。日本学生支援機構が行う「日本留学試験」の受験を出願条件とする。出願書類（書類審査）、小論文による試験および面接・口頭試問を行う。
		日本留学試験（成績）	◎				
筆記		◎					

		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
編入学者選抜	出願書類		○	○			大学・短期大学・高等専門学校を卒業した者や他の大学から本学に年次の途中から入学し直す受験生等を対象とする。出願書類（書類審査）、仏教学（筆記）、英語の筆記試験および面接・口頭試問を行う。
	筆記		◎				
	教科		◎				
	面接・口頭試問		○	◎	◎	◎	
社会人編入学者選抜	出願書類		○	○			入学年時点で満 26 歳以上であり、大学・短期大学・高等専門学校等を卒業した者を対象とする。出願書類（書類審査）、小論文による試験および面接・口頭試問を行う。
	小論文		◎	○	◎	◎	
	面接・口頭試問		○	◎	◎	◎	